

令和 6 年度病虫害発生予察予報第 10 号(令和 7 年 1 月)

令和 7 年 1 月 8 日
高知県病虫害防除所

《予報の概要》

作物名	病虫害名	予想発生量※
促成キュウリ	べと病 うどんこ病 黄化えそ病 退緑黄化病 ミナミキイロアザミウマ タバココナジラミ	平年並(中西)、やや少(中央)、少(西) 平年並(中西、西)、やや少(中央) <u>やや多(中西、西)</u> 、少(中央) <u>多(西)</u> 、 <u>やや多(中央)</u> 、平年並(中西) <u>多(西)</u> 、 <u>やや多(中西)</u> 、少(中央) <u>多(中央、西)</u> 、平年並(中西)
促成ナス	うどんこ病 黒枯病 すすかび病 ミナミキイロアザミウマ タバココナジラミ	やや少(中央)、少(東、西) 平年並(県下全域) <u>多(西)</u> 、やや少(東)、少(中央) やや少(中央)、少(東、西) <u>やや多(中央、西)</u> 、やや少(東)
促成ピーマン ・シシトウ	うどんこ病 斑点病 黒枯病 ミナミキイロアザミウマ タバココナジラミ	平年並(東)、少(中央、中西) <u>多(東、中央)</u> 、平年並(中西) <u>多(中央)</u> 、 <u>やや多(中西)</u> 、少(東) 平年並(中央)、やや少(中西)、少(東) <u>やや多(中西)</u> 、平年並(東)、少(中央)
促成トマト	うどんこ病 葉かび病 すすかび病 黄化葉巻病 タバココナジラミ	少(中央) <u>多(中央)</u> <u>やや多(中央)</u> <u>多(中央)</u> <u>多(中央)</u>

※ ()内の表記 東：県東部、中央：県中央部、中西：県中西部、西：県西部
県東部：安芸市、室戸市および安芸郡の町村
県中央部：高知市、南国市、香美市、香南市、長岡郡・土佐郡の町村、
吾川郡いの町および高岡郡日高村
県中西部：土佐市、須崎市、高岡郡(日高村を除く)町村および吾川郡仁淀川町
県西部：四万十市、宿毛市、土佐清水市および幡多郡の町村
なお、野菜は「土佐市」を中央部に入れています。

I 気象予報(高松地方気象台1月2日発表)

1月4日から2月3日までの天候見通し

<予想される向こう1か月の天候>

向こう1か月の気温は、寒気の影響を受けやすい時期があるため低いでしょう。特に期間の前半は気温がかなり低くなる可能性があります。向こう1か月の日照時間は、低気圧の影響を受けにくいとため、平年並か多いでしょう。

週別の気温は、1、2週目ともに低い確率50%です。

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>

期間	対象地域	要素	低い(少ない)	平年並	高い(多い)	
1か月	四国地方	気温	50		30	20
		降水量	40		30	30
		日照時間	20	40		40

<気温経過の各階級の確率(%)>

期間	対象地域	低い	平年並	高い		
1週目	四国地方	50		40		10
2週目		50		30		20
3～4週目		30	40		30	

<予報の対象期間>

1か月：1月4日(土)～2月3日(月)

1週目：1月4日(土)～1月10日(金)

2週目：1月11日(土)～1月17日(金)

3～4週目：1月18日(土)～1月31日(金)

II 病虫害発生予想

1 促成キュウリの病虫害

1)べと病

予 想 発生量：平年並(中西部)、やや少(中央部)、少(西部)

根 拠

(1) 12月の調査では、県下全域で発生が見られ、発生面積は県中西部で平年並、中央部でやや少なく、西部で少なかった。発病程度は県下全域で平年以下であった。

(2) 厳寒期の病勢進展は少ないため、発生の増加は少なく、現在の発生傾向が続くと考えられる。

対 策

(1) 多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底するとともに、換気によりハウス内湿度の低下に努める。

2)うどんこ病

予 想 発生量：平年並(中西、西)、やや少(中央)

根 拠

(1) 12月の調査では、県下全域で発生が見られた。発生面積は県中西部、西部では平年並、中央部では平年よりやや少なかった。発病程度は県中央部で平年よりも高く、中西部、西部で平年以下であった。

(2) 厳寒期の病勢進展は少ないため、現在の発生傾向が続くと考えられる。

対 策

(1) 他の糸状菌病害とは異なり、やや乾燥条件で発生が多くなる。多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底する。薬剤によっては、散布後も病斑の見た目が変化せず防除効果がわかりづらい場合があるため、防除後に展開した葉の発病の有無で防除効果を判断する。

3)黄化えそ病

予 想 発生量：やや多(中西部、西部)、少(中央部)

根 拠

(1) 12月の調査では、県下全域で発生が見られ、発生面積は県中西部、西部で平年よりやや多く、中央部で少なかった。発病程度は西部で平年よりも高く、中西部でやや高く、中央部で低かった。

(2) 厳寒期であり、本病の媒介虫であるミナミキイロアザミウマの増殖が緩慢なことや、野外から施設内への飛び込みもないので、新たな発生は少ないと考えられる。

対 策

(1) 媒介虫であるミナミキイロアザミウマの防除を徹底する。また、罹病株は早期に除去し、埋却などにより処分する。

4)退緑黄化病

予 想 発生量：多(西部)、やや多(中央部)、平年並(中西部)

根 拠

(1) 12月の調査では、県下全域で発生が見られ、発生面積は西部で平年よりも多く、中央部でやや多く、中西部で平年並であった。発病程度は、西部で平年よりも高く、中央部、中西部で平年並であった。

(2) 厳寒期であり、本病の媒介虫であるタバココナジラミの増殖が緩慢なことや、野外から施設内への飛び込みもないので、新たな発生は少ないと考えられる。

対 策

(1) 媒介虫であるタバココナジラミの防除を徹底する。

5)ミナミキイロアザミウマ

予 想 発生量：多(西部)、やや多(中西部)、少(中央部)

根 拠

(1) 12月の調査では、県下全域で発生が見られ、発生面積は西部で平年よりも多く、中西部でやや多く、中央部で少なかった。発生程度は、西部で平年よりも高く、中央部、中西部で平年以下であった。

(2) 厳寒期は増殖が緩慢になること、また野外から施設内への侵入もほとんどなくなることから、現在の状況が続くと考えられる。

対 策

(1) 多発すると防除が困難になるため、低密度時の防除を徹底する。薬剤防除は上位葉を中心に実施する。また、薬剤抵抗性が発達しているため、天敵の利用など、化

学合成農薬以外の防除方法も取り入れる。

6) タバココナジラミ

予 想 発生量：多(中央部、西部)、平年並(中西部)

根 拠

- (1) 12月の調査では、県下全域で発生が見られ、発生面積は県中央部、西部で平年より多く、中西部で平年並であった。発生程度は中央部、西部で平年より高く、中西部で平年並であった。
- (2) 厳寒期は増殖が緩慢になること、また野外から施設内への侵入もほとんどなくなることから、現在の状況が続くと考えられる。

対 策

- (1) 本虫は主に上位展開葉に産卵するので、薬剤防除は上位葉を中心に実施する。また、薬剤抵抗性が発達しているため、天敵の利用など、化学合成農薬以外の防除方法も取り入れる。

2 促成ナスの病害虫

1) うどんこ病

予 想 発生量：やや少(中央部)、少(東部、西部)

根 拠

- (1) 12月の調査では、県東部、中央部で発生が見られ、発生面積は中央部で平年よりもやや少なく、東部で少なかった。発病程度は両地域とも平年より低かった。
- (2) 気温の低下にともない病勢の進展が緩慢となることから、発生の増加は少なく、現在の発生傾向が続くと考えられる。

対 策

- (1) 他の糸状菌病害とは異なり、やや乾燥条件での発病が多くなる。多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底する。

2) 黒枯病

予 想 発生量：平年並(県下全域)

根 拠

- (1) 12月の調査では、県下全域で発生が見られ、発生面積はいずれの地域も平年並であった。発病程度は、西部で平年より高く、東部、中央部で低かった。
- (2) 厳寒期の病勢進展は少ないため、現在の発生傾向が続くと考えられる。

対 策

- (1) 多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底するとともに、換気によりハウス内湿度の低下に努める。
- (2) 発病葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出して処分する。

3) すずかび病

予 想 発生量：多(西部)、やや少(東部)、少(中央部)

根 拠

- (1) 12月の調査では、県下全域で発生が見られ、発生面積は西部で平年よりも多く、東部でやや少なく、中央部では少なかった。発病程度は、東部で平年よりもやや高く、中央部、西部で平年以下であった。

(2) 厳寒期の病勢進展は少ないため、現在の発生傾向が続くと考えられる。

対 策

(1) 多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底するとともに、換気によりハウス内湿度の低下に努める。

(2) 発病葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出して処分する。

4) ミナミキイロアザミウマ

予 想 発生量：やや少(中央部)、少(東部、西部)

根 拠

(1) 12月の調査では、県東部、中央部で発生が見られ、発生面積は中央部で平年並、東部でやや少なかった。発生程度は、両地域とも平年よりも低かった。

(2) 厳寒期は増殖が緩慢になることや、ほとんどのほ場でタバコカスミカメ等の天敵が定着していることから、減少傾向で推移するものと考えられる。

対 策

(1) 多発すると防除が困難になるため、低密度時の防除を徹底する。

(2) 天敵類の定着が遅れているほ場では追加放飼を検討する。

5) タバココナジラミ

予 想 発生量：やや多(中央部、西部)、やや少(東部)

根 拠

(1) 12月の調査では、県下全域で発生が見られ、発生面積は県中央部、西部で平年よりも多く、東部で平年並であった。発生程度は西部で平年よりも高く、東部、中央部では平年以下であった。

(2) 厳寒期は増殖が緩慢になることや、ほとんどのほ場でタバコカスミカメ等の天敵が定着していることから、減少傾向で推移するものと考えられる。

対 策

(1) 本虫は主に上位展開葉に産卵するので、薬剤防除は上位葉を中心に実施する。

(2) 天敵類の定着が遅れているほ場では、追加放飼を検討する。

3 促成ピーマン、シシトウの病害虫

1) うどんこ病

予 想 発生量：平年並(東部)、少(中央部、中西部)

根 拠

(1) 12月の調査では、県下全域で発生が見られ、発生面積は県東部で平年並、中央部、中西部で少なかった。発病程度はいずれの地域も平年以下であった。

(2) 厳寒期の病勢進展は少ないため、現在の発生傾向が続くと考えられる。

対 策

(1) 他の糸状菌病害とは異なり、やや乾燥条件での発病が多くなる。多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底する。

(2) 発病葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出して処分する。

2) 斑点病

予 想 発生量：多(東部、中央部)、平年並(中西部)

根 拠

(1) 12月の調査では、県下全域で発生が見られ、発生面積は県東部、中央部で平年より多く、中西部で平年並であった。発病程度は中央部、中西部で平年より高く、東部で低かった。

(2) 厳寒期の病勢進展は少ないため、現在の発生傾向が続くと考えられる。

対 策

(1) 多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底するとともに、換気によりハウス内湿度の低下に努める。

(2) 発病葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出して処分する。

3)黒枯病

予 想 発生量：多(中央部)、やや多(中西部)、少(東部)

根 拠

(1) 12月の調査では、県中央部、中西部で発生が見られ、発生面積は中央部で平年より多く、中西部でやや多かった。発病程度は中央部で平年より高く、中西部で平年より低かった。

(2) 厳寒期の病勢進展は少ないため、現在の発生傾向が続くと考えられる。

対 策

(1) 多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底するとともに、換気によりハウス内湿度の低下に努める。

(2) 発病葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出して処分する。

4)ミナミキイロアザミウマ

予 想 発生量：平年並(中央部)、やや少(中西部)、少(東部)

根 拠

(1) 12月の調査では、県中央部、中西部で発生が見られ、発生面積は中央部で平年よりやや多く、中西部で平年並であった。発生程度は中央部で平年より高く、中西部でやや高かった。

(2) 厳寒期は増殖が緩慢になることや、ほとんどのほ場でタバコカスミカメ等の天敵が定着していることから、減少傾向で推移するものと考えられる。

対 策

(1) 多発すると防除が困難になるため、低密度時の防除を徹底する。

(2) 天敵の定着が遅れているほ場では、追加放飼を検討する。

5)タバココナジラミ

予 想 発生量：やや多(中西部)、平年並(東部)、少(中央部)

根 拠

(1) 12月の調査では県下全域で発生が見られ、発生面積は県中西部で平年より多く、東部でやや多く、中央部でやや少なかった。発生程度は中西部で平年より高く、東部でやや高く、中央部で低かった。

(2) 厳寒期は増殖が緩慢になることや、ほとんどのほ場でタバコカスミカメ等の天敵が定着していることから、減少傾向で推移するものと考えられる。

対 策

- (1) 本虫は主に上位展開葉に産卵するので、薬剤防除は上位葉を中心に実施する。
- (2) 天敵の定着が遅れているほ場では、追加放飼を検討する。

4 促成トマトの病害虫

1) うどんこ病

予 想 発生量：少(中央部)

根 拠

- (1) 12月の調査では、発生面積は平年より少なく、発病程度は平年より低かった。
- (2) 厳寒期の病勢進展は少ないため、現在の発生傾向が続くと考えられる。

対 策

- (1) 他の糸状菌病害とは異なり、やや乾燥条件での発病が多くなる。多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底する。
- (2) 発病葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出して処分する。

2) 葉かび病

予 想 発生量：多(中央部)

根 拠

- (1) 12月の調査では、発生面積は平年より多く、発病程度は平年より低かった。
- (2) 厳寒期の病勢進展は少ないため、現在の発生傾向が続くと考えられる。

対 策

- (1) 多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底するとともに、換気によりハウス内湿度の低下に努める。
- (2) 発病葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出して処分する。

3) すずかび病

予 想 発生量：やや多(中央部)

根 拠

- (1) 12月の調査では、発生面積は平年よりやや多く、発病程度は平年より低かった。
- (2) 厳寒期の病勢進展は少ないため、現在の発生傾向が続くと考えられる。

対 策

- (1) 多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底するとともに、換気によりハウス内湿度の低下に努める。
- (2) 発病葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出して処分する。

4) 黄化葉巻病

予 想 発生量：多(中央部)

根 拠

- (1) 12月の調査では、発生面積は平年より多く、発病程度は平年より高かった。
- (2) 厳寒期であり、本病の媒介虫であるタバココナジラミの増殖が緩慢になることや、野外から施設内への侵入がないことから、新たな発生は少ないものと考えられる。

対 策

- (1) 媒介虫であるタバココナジラミの防除を徹底する。また、罹病株はほ場外に持ち出し、埋却するなどして処分する。

5) タバココナジラミ

予 想 発生量：多(中央部)

根 拠

- (1) 12月の調査では、発生面積は平年より多く、発生程度は平年より高かった。
- (2) 厳寒期は増殖が緩慢になること、また野外から施設内への侵入もほとんどなくなることから、現在の状況が続くと考えられる。

対 策

- (1) 本虫は主に上位展開葉に産卵するので、薬剤防除は上位葉を中心に実施する。また、天敵や粘着トラップの利用など、化学合成農薬以外の防除方法も取り入れる。

農作物の病虫害防除のための情報です。お気軽にご利用ください。

病虫害防除所ホームページ(こうち農業ネット)<https://www.nogyo.tosa.pref.kochi.lg.jp/?sid=2016>

- ①病虫害発生予察月報、病虫害発生予察予報
- ②病虫害発生予察注意報、病虫害発生予察警報、病虫害発生予察特殊報
- ③病虫害発生予察技術資料
- ④新しく問題となっている病虫害 etc.



高知県農薬情報システム <https://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/haishinfile/list/kochi>

- ①農薬の検索
- ②農薬データの一覧
- ③配信ファイルの閲覧(農薬安全使用、病虫害防除指針 etc.)

